

## ✿ 退職者のひとこと

奈良文化財研究所にお世話になって通算 38 年が経ち、いよいよ退職の 때가訪れました。この間様々な発掘にかかわることができました。20 代後半にはマルコ山古墳、考古学ではおそらく初めてファイバースコープで石室の中を観察したことで話題になりました。しかし、実際の撮影はズボンのベルトと脚を持ってもらい、盗掘孔から宙づり状態でファイバースコープを私が手に持ち、外でモニタを見ている先生方の言うがままに方向を変えたりしました。今から思うとずいぶん滑稽な話です。30～40 代では特に山田寺の発掘に印象深いものがあります。おびただしい数の部材が散乱、瓦が葺かれたままの状態に倒壊した回廊など、強烈な印象を受けました。ほかにも水落遺跡の貼石遺構と特異な地中梁もかなりインパクトがありました。50 代になってからはキトラ古墳、高槻市の鬮鷄山古墳、高松塚古墳の撮影などで機材の開発や撮影方法等を考えたりと、やりがいのある仕事ことができました。様々な発掘が思い出されますが、なぜか長年藤原調査部にいながら藤原宮の印象が薄いような気がします。また、飛鳥資料館特展のためのポスター写真は 30 年以上に渡り自由に撮影できたこと等、本当に楽しく仕事できました。38 年の間に写真もすっかり様変わり。40 代中頃からはデジタルとのつきあいが始まり、今ではデジタルなしには仕事ができなくなっています。銀塩さえ知っていれば仕事が成り立っていたのに…。おかげで頭は少し活性化できたことと、他では触ることのできないような最先端のデジタル機器を扱うことができたことです。思い返せばあっという間の 38 年間。長い間お世話になりました。

(企画調整部 井上 直夫)



気分は未だ 40 代